

新入生にすすめる 50 冊の本



2015

[表紙写真：スクールバスを待ちながら]

秋も深まり、大学構内には、モミジ・イチョウ・ゼルコバの落ち葉がいっぱいです。

薬学部玄関前の小さなバス停には、小さなベンチ（20センチ×120センチ）があります。

穏やかな夕日です。

小春日和です。

読書日和です。

<2014 年 11 月 12 日 18 時 36 分撮影>

写真提供： 西尾 廣昭（薬学部・教授）

撮影場所：10 号館前バス停

本の海へ漕ぎだそう！

皆さん、ご入学誠にありがとうございます。
現代作家、森見登美彦の小説に、本との出会いについて語ったすてきな物語があります。その中で「古本市の神」が、「本たち」は「みな平等で、自在につながりあっている。」「その本たちがつながりあって作り出す海こそが、一冊の大きな本だ。」と語ります（『夜は短し歩けよ乙女』）。本と本とは人がつなぐもので、それはさらに人と人とをつなぎます。この「新入生にすすめる 50 冊の本」は、福山大学の学生、教員、職員が皆さんを歓迎する気持ちをこめて大切な本を一人 1 冊ずつ紹介したものです。

ここに紹介された本を手にとることが、皆さんをさらに新たな本と人との出会いの場に導いてくれることでしょう。また、皆さん自身が読んだ新たな本を、そこに投げ入れて下さい。そうすれば、皆さん一人一人の周りには、本と人とのつながりの新たなエリアができて、福山大学という大きな本の海がさらに広がって行くことでしょう。

皆さんの学生生活がすてきな出会いで満たされますように、心からお祈りします。

福山大学附属図書館
館長 青木美保



人生の道しるべ

- 悩める人のための不朽の名著
『道は開ける』 デール・カーネギー 著
内田博志
.....1
- ポール・アレン、ビル・ゲイツ、
マイクロソフトのことが分かる！
清水 光
『ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト』 ポール・アレン 著2
- 生きることの生々しさがせまる！
関田隆一
『ほとけの救い 仏教入門』 寺内大吉 著3
- 人間は卑怯であったり、するかったりする
しかし、それでも美しくなることもできる
中澤孝夫
『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 著4
- 言葉には、サッカーをうまくする力はないけれど、
背中を押してくれる力がある
濱本真希
『自分を動かす言葉』 中澤佑二 著5
- みんな「自立」に騙されてない？
藤原直希
『反社会学講座』 パオロ・マッツァリーノ 著6
- 生前に一つ善い行いをしたが、
地獄で欲を見せては意味がない
保手浜菜津美
『蜘蛛の糸』 芥川龍之介 著7

こんな人生あり?!	山口泰典
『マンガ水木しげる伝』 水木しげる 著	8
よりよい人生を送るための重要なポイント!	山下佑介
『利他のすすめ』 大山泰弘 著	9
あなたは、人との出会いに感謝してますか	山廣 愛
『99 のなみだ』 リンダブックス編集部 編 著	10
ありがとう。ミスター 鈴井貴之	
強さをありがとう	渡辺未来
『ダメダメ人間』 鈴井貴之 著	11



学びの道しるべ

明治初頭の日本の庶民生活とは?	
当時のアメリカ人女性の紀行文を、民俗学者宮本常一が解説	
青木美保	
『イザベラ・バードの旅『日本奥地紀行』を読む』 宮本常一 著	12
料理は自立の第一歩です!!	青野篤子
『この野菜にこの料理』 有元葉子 著	13

読むだけでお腹がすいて元気になれる料理本です

伊藤日向子

『LIFE なんでもない日、おめでとう!のごはん』

飯島奈美 料理・スタイリング14

本への愛情が伝わってくる一冊です

大谷恭子

『読書からはじまる』長田弘 著15

世間の「常識」に惑わされず、

自分の狭い見方に決別しよう!

大塚 豊

『知的複眼思考法』荻谷剛彦 著16

挑戦と感動の物語

小林正明

『2005年のロケットボーイズ』五十嵐貴久 著17

大胆果敢な世界史の試み

一二つの世界大戦、民族、宗教と貧富の格差続くー 清水厚實

『二〇世紀の歴史』木畑洋一 著18

「正解」以外にも「別解」があるかもしれません。

別解力を身につけて人生の選択肢を増やしてみませんか?

田村 豊

『〇に近い△を生きる』鎌田 實 著19

生活文化を楽しみたい人にすすめる

丹藤浩二

『嗜好品文化を学ぶ人のために』

高田公理, 嗜好品文化研究会 編20

灯台もと暗しを戒めに世界を相手に
『欧米人が沈黙するとき』直塚玲子 著 西田 正
.....21

現在の社会を理解するためのやさしい歴史や経済の解説
服部 進
『池上彰のやさしい教養講座』池上彰 著22

海外留学に関心のある人にはとても役立つ
本当に楽しい「必読書」です 早川達二
『若き数学者のアメリカ』藤原正彦 著23

思わせぶりの数字にだまされるな！
『統計の9割はウソ』竹内薫 著 松浦幸恵
.....24

うるわしきかな、協力!?!
『協力と罰の生物学』大槻久 著 松田文子
.....25

生き物を飼うことの面白さ
『生き物を飼うということ』木村義志 著 山岸幸正
.....26



科学の道しるべ

生物の大先輩、昆虫!

嫌おうが、好もうが、無視しようが、そこにいます 荒井 賢
『昆虫はすごい』丸山宗利 著27

人と犬との出会い

池田英代

『犬のココロをよむ』菊水健史, 永澤美保 著28

そこにあるそれぞれの正義に従って

片桐重和

『もしも遠隔操作で家族が犯罪者に仕立てられたら』一田和樹 著
.....29

生物には全く興味のない人でも、

面白おかしく読み切れる一冊です

桑田成年

『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます!』小林朋道 著
.....30

本物のサイエンス・フィクション!

論理的な思考の大切さを教えてくれる

理系学生の必読書がこれだ!

酒井 要

『星を継ぐもの』ジェイムズ・P.ホーガン 著, 池央耿 訳 著 ...31

何年も前に書かれているのかかわらず、

現在の社会問題を的確に捉えている不思議な本

杉原千紗

『アミ小さな宇宙人』エンリケ・バリオス 著32

ロボットの心 人間の心

竹盛浩二

『ロボットとは何か』石黒浩 著

.....33

ブドウ栽培からワイン醸造までをシステム化して

地域を再生するモデルを築く!

久富泰資

『千曲川ワインバレー 新しい農業への視点』玉村豊男 著

.....34

読めば分かる、読まねば分からぬ、何事も・・・丸山涼火

『小惑星探査機はやぶさ物語』的川泰宣 著

.....35

常識を疑う勇気をもつ

渡辺伸一

『巨大翼竜は飛べたのか』佐藤克文 著

.....36



文学の道しるべ

努力とは何なのだろうか

夢に向かって頑張る人へ

一棟俊範

『風が強く吹いている』三浦しをん 著

.....37

星新一の本を目にすることがあったら、

最初の1話だけでもいいので読んでみてください! 片山佳織

『ボッコちゃん』星新一 著

.....38

『指輪物語』の前日譚

20 世紀最上のファンタジーはここから始まる 喜多村侑佳

『ホビット ゆきてかえりし物語』 J.R.R.トールキン 著……………39

「この町にはね、奇跡が起きるんだよ。」潮ノ道

一そこは不思議な力と幻想の物語が存在する町一 吉川万葉

『扉守一潮ノ道の旅人一』 光原百合 著……………40

少女は恋をした、美しいあの方に

木村美紗希

『朝雲』 川端康成 著……………41

この一冊を読むと毎日を大切に生きようと思います

金藤寿希亜

『永遠の 0』 百田尚樹 著……………42

大学時代を自分のものにするために

伍賀正典

『青が散る』 宮本輝 著……………43

アメリカ南部の世界を独特な手法で描いた

フォークナーの世界

佐々木光行

『フォークナー短編集』 ウィリアム・フォークナー 著……………44

「獣」との出会いが、少女の運命を変える

佐藤未佳子

『獣の奏者』 上橋菜穂子 著……………45

煌めく光源氏の世界へようこそ

高橋幸子

『あさきゆめみし』 大和和紀 著……………46

福山市松永が舞台です
『ハブテトル ハブテトラン』中島京子 著 高橋佳美47

ディズニー史上最高のファンタジー・ラブストーリー
あなたも魔法にかけられてみませんか？ 橋本菜生
『魔法にかけられて』ビル・ケリー 脚本48

複雑で狡猾で、図太い
それが人間なのかもしれません 原田卓也
『人間失格』太宰治 著49

あなたには最愛の人がいますか？
別れ、悲しみ、困難、共に乗り越えることができますか？ 藤井真実
『100回泣くこと』中村航 著50

宮沢賢治の創りだす幻想的な世界、
皆さんもぜひ感じてみてください 松山裕矢
『銀河鉄道の夜』宮沢賢治 著51

かつて味わったことのない奇妙さと
それを覆す爽快感が一度に味わえる作品 宮地菜緒
『江戸川乱歩傑作選』江戸川乱歩 著52

彼らが犯した過去の罪を
アメリカ先住民の童謡で贖罪します 保田洸紀
『そして誰もいなくなった』アガサ・クリスティー 著53

アキレスと亀のパラドックスって、聞いたことあります？

山崎理央

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』村上春樹 著

.....54

サラッと読めて和菓子が食べたくなる一冊

吉津悠子

『和菓子のアン』坂木司 著

.....55

備考：所属は平成 27 年 3 月現在です。



悩める人のための不朽の名著

『道は開ける』

デール・カーネギー著（角川書店、新潮社、創元社）

『道は開ける』という書名からは、成功者になるための処世訓というイメージを受けるかもしれません。しかし実は、この本の原題は“*How to Stop Worrying and Start Living*”。悩みを捨てて新たな心の持ち方を見つけるための指南書なのです。

1948年に英国で出版されて以来、世界中で1600万部、日本でも200万部が読まれてきた、名著中の名著です。日本では長らく創元社から出版されていましたが、2014年に新たに新潮社版と角川文庫版が加わり、それぞれに異なる味わいの翻訳でカーネギーの言葉を伝えてくれるようになりました。

新しく大学生になった皆さんは、喜びや期待に胸を膨らませる一方、いろいろな不安や悩みも抱えていることでしょう。もし大学生活に行き詰まりを感じるものがあったら、この本のページを開いてみてください。救いになる言葉が、きっと見つかるはずです。

内田 博志（機械システム工学科）



ポール・アレン、ビル・ゲイツ、
マイクロソフトのことが分かる！

『ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト』
ポール・アレン 著，夏目大 訳（講談社）

今や押しも押されもしない大企業となったマイクロソフト。その誕生から現在までの足跡をたどることができる本です。著者のポール・アレンは大の本好きで、本人は本の中毒患者であると述べています。ビル・ゲイツとはシアトルのレイクサイド・スクールで出会いました。その頃からプログラミングに熱中し、その能力は、企業のスペシャリストが驚くほどの進歩を遂げました。その頃は、丁度、コンピュータが大きく発展する時期と重なっており、パーソナルコンピュータのソフトウェア開発競争が激しさを増してきました。その中で、マイクロソフトはソフトウェア開発を使命として着実に発展しました。この本には、ビル・ゲイツのエピソードも色々書かれています。ポール・アレンとビル・ゲイツは共に並はずれたプログラミング能力を身につけました。たった二人からソフトウェア企業を起こし、大企業に発展するまでの経緯は、スリルと感動に満ちています。

清水 光（情報工学科）



生きることの生々しさがせまる！

『ほとけの救い 仏教入門』

寺内大吉 著（心交社）

著者は浄土宗大本山増上寺の法主という超偉いお坊さんなのに直木賞作家（ペンネームがお坊さんらしい）で、スポーツやギャンブルの解説も得意という多才人だ。平成20年に遷化されたが、私は最後の法話をたまたま小さな寺で聴くことができた。堅苦しい話は一切なく、ご自身の思い出や考えをゆっくりと話していただけたのに、それがプレゼンテーションの鑑で、場にいた全員が生きることの喜びと苦しみを考え、しかも爽快な世界に引き込まれた30分だった。本書で誰でもそれを体験できる。私は普段から本書をめくり、最後の法話の場で和尚から話を聞いている気分になりつまみ読みをしている。仏教入門という書名で「宗教は・・・」と敬遠しない方が良い。経典と名僧の言葉を解説しているが、色恋、ギャンブル、犯罪何でも出てきて、おもしろくて読むのをやめられない。なぜ勉強するのか、親、友達って何だろうと少しでも考えるのなら学生に限らず教職員もこれだ！

関田 隆一（スマートシステム学科）



人間は卑怯であったり、ずるかったりする
しかし、それでも美しくなることもできる

『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎 著（岩波文庫）

この本は 1937 年の作品で、もう 70 年も前のものですが、お父さんを亡くしたコペル君というニックネームの中学生の、友情や失敗を通して精神的な成長をとげる作品で、傷つくことが人間の尊厳と楯の裏表になっていることを教えてくれる素晴らしい物語です。

多くの学生が「この本を読んで自分の心の中に心棒みたいなものが通った気がした」とか「これからの人生に立ち向かえるような気がする」と語っています。

中澤 孝夫（税務会計学科）



言葉には、サッカーをうまくする力はないけれど、
背中を押してくれる力がある。

『自分を動かす言葉』

中澤佑二 著（ベスト新書）

この本は、元日本代表のキャプテンで今もなおＪリーグの横浜Ｆ・マリノスでディフェンダーとして活躍するサッカー選手の中澤佑二さんがたくさんの本や人との出会いを通して、もたらされた「言葉」によってどう思い、どう考え、どのように行動をしたのかが書かれています。

「あの言葉があったから頑張ることができた」「あの言葉のおかげで今の自分がいる」こんな経験ありませんか？こんな経験で今の自分がいると思いませんか？「言葉」は使い方によって他者を喜ばせたり元気づけたりすることができます。しかし、時には他者を怒らせたり落ち込ませたりすることもあります。そう、「言葉」には、力があるのです。だからこそ、この本を読んでほしいです。この本に書かれている数々の「言葉」。私たちに良い刺激を与え、そこから学んだことや感じたことを他者に与えることができるすばらしい本になっています。ぜひこの本を読んでみてください。

濱本 真希（人間文化学科１年）



みんな「自立」に騙されてない？

『反社会学講座』

パオロ・マッツァリーノ 著（イースト・プレス）

フリーターやパラサイトシングル・老人の軽視化・学力低下・所得格差など様々なものが近年の社会問題として扱われています。ただこれらは近年発生した問題なののでしょうか？

有識者とされる人たちは「私たちの若いころはこんなバカな若者はいなかった、昔はよかった」と言います……が、本当に昔はよかったのでしょうか？

彼らの言い分を鵜呑みにすれば日本人全てが正社員で、自立した暮らしをし、お金持ちで、少年たちは老人を敬い、学力に優れていたのでしょうか？そんな馬鹿な事あるはずないと一刀両断してみせるのが、この本です。

この本では人間は大昔からなにも変わってなんかいないと力説します。人は本来いいかげんで、バカで、忘れっぽくて、怠け者で、自己中心的で、楽なことに逃避していくことそのものが人であると言って退けます。

それ故に「自立」など行うべきではないのですが……（この続きは本書にて）

藤原 直希（海洋生物科学科 2 年）



生前に一つ善い行いをしたが、
地獄で欲を見せては意味がない

『蜘蛛の糸』

芥川龍之介 著（文春文庫）

私が紹介するオススの本は芥川龍之介の『蜘蛛の糸』です。

この本の内容は、ある日お釈迦さまは、カンダタと言う男が地獄でうめいている姿を見ました。カンダタは生前様々な悪事を働いた大泥棒でしたが、一つだけ善い事をしていました。それは小さな蜘蛛の命を奪わず助けた事です。お釈迦様はカンダタを救う為、極楽に居る蜘蛛の糸を地獄に下ろしました。カンダタは蜘蛛の糸を掴み登って行きました。他の罪人も同じように登ってくるのを見たカンダタが「この糸は俺のものだ」と叫んだ瞬間糸は切れ、再び地獄へ落ちてしまいました。

私はいくら生前に善い行いをしても地獄で醜い欲を見せたら元も子も無いのだなと思いました。芥川龍之介作品でも最初に知ったので私には思い入れが強い作品です。短編集の本になっており、『蜘蛛の糸』の他にも色々な作品があります。どの話も面白いので、機会があったら読んでみて欲しいと思います。

保手浜 菜津美（人間文化学科1年）



こんな人生あり?!

『マンガ水木しげる伝 完全版』

水木しげる 著（講談社漫画文庫）

「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる（本名、武良茂）氏の自分史ですが、この人生が凄すぎる。水木氏いわく、「毎日がつまらんとする人は、この本を読むといいですよ。きっとフハッと驚いて、生きる意欲がわいてきます。」まさにその通りです。私は、何十回読んだか分かりませんが、とにかく飽きません。昭和（戦前、戦中、戦後）と平成の世の中の不条理が、これでもかとばかりに水木氏に押し寄せてきます。それを深刻にならずに乗り切ってゆく水木氏自身を、ユーモアを散りばめて描いています。だから読んでも全く疲れないのですが、そこに描かれている近代・現代日本の人間社会はどんな歴史書よりも、リアリティーを持って読者に迫ってきます。その時代、その場の空気感まで分かると言っても良いでしょう。NHK連続ドラマの「ゲゲゲの女房」は、水木氏の魅力のほんの一部だけです。だまされたと思って、ご一読を。

山口 泰典（生物工学科）



よりよい人生を送るための重要なポイント!

『利他のすすめ』

大山泰弘 著 (WAVE 出版)

この本は、日本理化学工業の会長であられる大山泰弘さんがチョーク工場で学んだ幸せに生きる 18 の知恵について書かれている本です。この本の中で大山さんは「人の役にたつところこそ、幸せ」なのだ、ということを繰り返して書かれています。又、震災復興支援などで知られている「NGO JEN」の木山さんは、「絶望的な状況の中で、これ以上自分のためには頑張れない、しかし、誰かのためなら頑張れる。これはどこへ行っても変わりません」という意味のことを仰いました。やはり人間は本来そういう大事な精神を持っていると感じました。しかしながら、現代の世相を見るに「利他の心」という人を思いやる大事な精神が失われつつあるのではないかと思います。この本は、今の時代に一番重要なポイント教えてくれていると思います。僕もこの本を呼んで人のために生きる努力をしようという考え方に変わりました。ぜひ読んでみて下さい!

山下 佑介 (人間文化学科 1 年)



あなたは、人との出会いに感謝していますか

『99 のなみだ』

リンダブックス編集部 編著（泰文堂）

『99 のなみだ』という本は、短編集で一般の人の体験談が書かれています。そのため、作者は一編一編違うのです。この『99 のなみだ』という本は、珠玉の物語です。5歳のときに、愛する父が病気で亡くなり、あまり父のことを知らずに育ってきた女性が大人になり、愛する人ができ結婚するという事になった。その結婚式であるサプライズが行われた。それは、女性が5歳のときに病気で亡くなった父から女性へのあるプレゼントだった…。大切な人と当たり前前に過ごせる時間は、とても貴重な時間なんだよ。後悔しないためにも、現在(いま)出来る事を思いっきりしようと、色々と気づかされる物語ばかりです。最近、泣いていないなという人や、心にもやもやがある人、幸せいっぱいの人、どのような人にもこの『99 のなみだ』という本は、絶対何かを気づかせてくれ、心を暖めてくれる本です。皆さんに是非、読んでいただきたい作品です。

山廣 愛（人間文化学科 1 年）



ありがとう。ミスター鈴木貴之。
強さをありがとう。

『ダメダメ人間』
鈴木貴之 著（MF 文庫）

私は再び懲りずに 2 年前に紹介した本の、
続編を新入生の皆さんに。

著者は札幌で芸能事務所を立ち上げ、現在
会長となっている。という説明より、「水曜ど
うでしょう」のミスターと紹介しておきます。

この本では、著者の 30～40 代の話が書かれ
ており、前作よりサラッと読むことができるの
では？と思っています。

おすすめしたい話は『ダメ人間』。前作から
登場する「自己嫌悪」のやりとり。著者自身か
ら生まれた自己嫌悪という存在は、著者を見つ
め直す大切な気持ちだったのだな、と読んで私
も戦おう、と思えました。

もがき苦しみ、自分が嫌になるくらい悩ん
だり、涙を流すことも時にはあると思います
が、つらい道を進むことはたいへん人間らしい
と私は思います。この本を読んで、大学 4 年間
を強く生きてください。

渡辺 未来（人間文化学科 平成 24 年 3 月卒業）



明治初頭の日本の庶民生活とは？

当時のアメリカ人女性の紀行文を、

民俗学者宮本常一が解説

『イザベラ・バードの旅『日本奥地紀行』を読む』

宮本常一 著（講談社学術文庫）

47 歳のアメリカ人女性イザベラ・バードは、明治 11 年サンフランシスコから船で初来日し、伊藤という 18 歳の若者を通訳として、東北から北海道まで 3 ヶ月の旅をし、その紀行文を出版しました。それが『日本奥地紀行』です。民俗学者宮本常一は、この紀行文を、明治初頭の日本人の庶民の生活を記録している貴重な書物として評価しています。そこには、「日本人のもつ人のよさみたいなもの」があったと宮本は言っています。また、彼女が米沢盆地を歩いて「地上の樂園」と評したことを挙げ、日本文化を評価するヨーロッパ人の視点から、江戸時代にはあったであろう日本社会のよさを描き出しています。

宮本が引用している箇所には、当時の日本人が子供を大変大事にして家庭生活を送っていたこと、駕籠^{かご}かき職人が決して超過料金を取らず、また野の花を自分にくれるなど優しかったことなどが描かれており、今は失われた日本の姿が想像され、興味深いです。

青木 美保（人間文化学科）



料理は自立の第一歩です！！

『この野菜にこの料理』

有元葉子 著（筑摩書房）

一人暮らしの悩みの種は料理ですね。でも、料理がうまくなると、楽しみにもなります。何より、料理ができることは自立の第一歩。大学生になったら、まず自分のために、そして次は友だちや家族のために、料理をする習慣を身につけましょう。

料理の主体は何でしょうか？私たちはふつう肉か魚を中心に献立を考えて、野菜は添え物くらいに考えています。そうすると、献立のレパートリーはちっとも増えません。そして栄養も偏ってしまいます。

この本は、それぞれの野菜に適した調理法を教えてください。ちょっととなつかしい日本古来の料理に、著者のアイデアを加味した、そして縦書きの料理の本。一生ものになりそうです。和風粉ふきいも、玉ねぎの丸ごとグリル、かぼちゃの甘煮、大根のサラダ、刻みニラと油揚げの味噌汁・・・まず、こんな簡単なものから挑戦してみましょう。きっとあなたのレシピはどんどん増えていくことでしょう。

コンビニで料理を買い、インターネットでレシピを検索する、そんな時代に貴重な本。

青野 篤子（心理学科）



読むだけでお腹がすいて元気になれる料理本です

『LIFE なんでもない日、おめでとう!のごはん』
飯島奈美 料理・スタイリング（東京糸井重里事務所）

映画、ドラマ、CM など様々な映像媒体に出てくる料理を手掛けている方の料理本です。特別な技法や材料が不要な料理ばかりで、だしのとり方や調理器具の揃え方などが丁寧に紹介されており、まさに料理の参考書のように作られています。

一人暮らしの方は挑戦することで達成感が得られ、また実家から通学している方も、誰かとワイワイしながら楽しく作れるような料理がたくさん載ってます。

出てくる料理をテーマに、様々な分野で活躍されている方々のエッセイも読みごたえがあり、一つ一つのエッセイにしんみりしたり、楽しくなったりといろんな思いを引き出してくれます。

この本はシリーズがありますが、共通しているのが「何でもない日、おめでとう」をテーマにしていることです。何でもない日常がおいしい料理や料理に向き合う時間を通して、かけがえのないものになれるようにと、本を製作している方々の思いや愛情が詰まっています。

伊藤 日向子（生命栄養科学科）



本への愛情が伝わってくる一冊です

『読書からはじまる』

長田 弘 著（NHK 出版）

この本は、読書の技術的な方法論ではありません。著者は詩人で哲学的な内容もあり、読んでいくと、自分の中で形になっていくような感覚がもたらされました。「読まない本」の大切さや、本を友人として考えたり、「読書のための椅子」について真剣に語り、全篇から長田氏の「本」「読書」に対する敬意と愛情が伝わってきます。

いい本だと薦められた本の良さが読んでもわからなかった時や、感動した本だったのに詳細が思い出せなかった時、自己嫌悪のような気分になることがありましたが、この本を読むと、前向きに気軽にもっと読書を生活に取り入れてみたい気持ちになりました。

「本は読んでも忘れることができる、忘れたらもう一回読めばいい」「再読のチャンスを自分にあたえることで、読書という経験を、自分のなかで、絶えず新しい経験にしてゆくことができる」と著者は言っています。

大谷 恭子（職員）



世間の「常識」に惑わされず、
自分の狭い見方に決別しよう！

『知的複眼思考法』

荻谷剛彦 著（講談社＋α文庫）

子どもの頃、理科の教科書の載っていたトンボの眼の写真を見て、こんな眼を持っていたら周りの世界はどう見えるんだろうと想像したことがありました。つまり「複眼」です。その言葉をタイトルに取り入れた本書の著者は、東大教授では飽き足らず、海の方こうに飛び出して、オックスフォード大学教授として活躍する教育社会学者です。『大衆教育社会のゆくえ』ほか、学歴社会や平等主義をめぐる専門的学術成果も数多い著者が、物事を多面的に捉えることの重要性とその方法について、分かり易く論じています。自らのアメリカ留学体験を含む人生の随所で身につけた種々の手法、考える術がちりばめられています。例えば、短絡的あるいはステレオタイプな見方を排す。分かったつもりで普段何気なく使っている抽象的概念を疑ってかかり、他の言葉で言い換えて見る。目の前の問題（事象）に内在する複数の要素・要因と、それらの間の関係に絶えず注意する等々。大学での「学び」に欠かせない批判的創造的思考力を手に入れる絶好のヒントに溢れています。

大塚 豊（大学教育センター）



挑戦と感動の物語

『2005 年のロケットボーイズ』

五十嵐貴久 著（双葉文庫）

この本は、学生たちが人工衛星を作るコンテストに参加する話です。大きなプロジェクトに挑戦するためにはさまざまな困難があります。主人公は専門的な知識もほとんどないなか仲間を集めプロジェクトの挑戦を始めていきます。順調に進んでいたプロジェクトも仲間割れや資金難など様々なトラブルに遭遇します。この本の主人公もこの挑戦がその後の人生を大きく変える結果となっています。挑戦するものが大きければ大きいほど、また、困難が大きいほど成し遂げたあとの感動も大きくなります。この本は、苦勞を乗り越えて挑戦することへの感動に出会うことができる話です。

これから希望に満ちていろいろなことに挑戦していく新入生にはぜひ読んでいただきたいと思います。

小林 正明（機械システム工学科）



大胆果敢な世界史の試み

— 二つの世界大戦、民族、宗教と貧富の格差続く —

『二〇世紀の歴史』

木畑洋一 著（岩波新書）

21 世紀のいま改めて 20 世紀を見ると世界中で戦争と平和が繰り返され、帝国主義が跋扈した厳しい時代でありました。その影響は 21 世紀の今日でも、民族、宗教、貧富の格差による紛争となり混乱を極めています。それを反映するかのよう、国家といてないような「イスラム国」なるものも生まれています。

『二〇世紀の歴史』では、「20 世紀には差別と被差別、支配と被支配の構造が世界を覆い、暴力と戦争に満ちた帝国主義であった」と厳しく指摘しており、本文では①支配—被支配関係の広がり②帝国世界動揺の開始③帝国世界再編をめぐる攻防④帝国世界の解体⑤長い 20 世紀を後に一で構成し、帝国主義の時代、第 1 次世界大戦とその後、世界恐慌から第 2 次世界大戦へ、第 2 次世界大戦後の時代—に区分し、20 世紀をわかりやすく解説しています。

いま世界中が平和と安定を求め、努力していますので、この本をぜひ参考にしてほしいと思います。

清水 厚實（理事長）



「正解」以外にも「別解」があるかもしれません。

別解力を身につけて

人生の選択肢を増やしてみませんか？

『〇に近い△を生きる

「正論」や「正解」にだまされるな』

鎌田 實 著（ポプラ新書）

「正解」以外の「別解」を見つけられると人生の幅が広がり、少し楽に生きていくことができる。そんなことが分かる本です。

小学校から大学まで、学校では一つの正解「〇」を見つけ出すための方法をたくさん教えます。しかし実社会では、完全な正解がなく別解がたくさん存在するような問題にしばしば遭遇します。「〇〇でなければダメ！」という一元的な考え方よりも、「△△でもいいかもしれない？」という別解を見つける（別解を見つけようとする）能力の大切さがチェルノブイリ原発事故やイラクの救援活動を長年続けている著者自身の体験をもとに語られています。

新書には「難しい」とか「堅苦しい」といったイメージがあるかもしれませんが、この本は、鎌田實氏自身の体験に基づいた話や対談が中心なので気楽に読んでいくことができます。大学生になったことを契機に「新書」にもチャレンジしましょう！

田村 豊（薬学部）



生活文化を楽しみたい人にすすめる

『嗜好品文化を学ぶ人のために』

高田公理，嗜好品文化研究会 編（世界思想社）

嗜好品と聞いて何を思い出すだろうか。各自が日頃嗜んでいるものが念頭に浮かぶにちがいない。コーヒー、茶・紅茶、酒・アルコール飲料、たばこは四大嗜好品である。近年では清涼飲料水も仲間入りしている。胡椒などの香辛料はかつて世界史を動かした。最近では生活習慣の変化に伴って嗜好品の概念も限りなく多様化してきている。若い人達の多くは音楽やケータイを挙げる。

本書は 21 の嗜好品を取りあげて、それぞれ専門家が簡潔に説明してくれる。そして嗜好品文化研究に対して、歴史学や文化人類学だけでなく、心理学、生理学、植物学まで様々な学問分野からのアプローチが説明される。特に楽しいのは、コルバン『においの歴史』などの名著の解題を読む時である。研究を深めるためには巻末の文献目録を利用するとよい。とにかく本書を精読することによって生活文化への興味が深まること必定である。

丹藤 浩二（大学教育センター）



灯台もと暗しを戒めに世界を相手に

『欧米人が沈黙するとき』

—異文化間コミュニケーション—

直塚玲子 著（大修館書店）

日本社会のグローバル化は避けられない。人の交流が一層活発になるなかで、文化の違いを克服して円滑なコミュニケーションを図るかは、現代人に突き付けられた課題である。本書は在日外国人や旅行者に誤解される日本人の言語行動を豊富な実例で示している。日本人が当然と思っている日本語での謝り方、誘い方、断り方などが彼らには十分意図が伝わらない場合がある。言語行動自体文化を背景に持っているために、それは無意識のうちに形成されたものである。従って、著者も指摘しているように、日本人の行動を意識的に捉え、明確に説明して誤解を解いていく必要がある。勿論、日本人の持っている相手への思いやり、対立より和みを優先する心の余裕など日本文化の特性を捨てる必要はない。

芳賀綏『日本人らしさの発見—しなやかな＜凹型文化＞を世界に発信する』も合わせて読めば、世界における日本文化の相対的な価値を理解することができる。

西田 正（人間文化学科）



現在の社会を理解するための やさしい歴史や経済の解説

『池上彰のやさしい教養講座』

池上 彰 著，日本経済新聞社 編（日本経済新聞出版社）

学生と話をしていると、歴史や経済のごく基本的な知識がないことに時々愕然（がくぜん）とします。これはわたし自身にとっては同時進行してきた社会が、学生にとっては生まれる前、あるいは幼いときに起きた遠い過去の話が起点だからです。わたしの先輩諸君も私たちの世代に同じ思いを抱いたに違いありません。

歴史、経済、文化などなど教養と呼ばれる科目の役割は目に見えませんが、実に大きなものがあります。私たちの学生時代は（よくわからないくせに）無理やりでも読書をした世代ですが、今はそういう時代ではありません。

著者は以前こどもニュースで知られた人で、その博学とやさしい説明のため、実はこの番組は大人が見ていました。イスラムの話から沖縄の米軍基地の話、長い経済不況とアベノミクスの話まで、やさしい解説と押しつけでなく、読者自身に解決を考えてもらう書き方です。いずれ社会に出て行く学生諸君の助けになる一冊です。

服部 進（情報工学科）



海外留学に関心のある人には
とても役立つ本当に楽しい「必読書」です。

『若き数学者のアメリカ』

藤原正彦 著（新潮文庫）

初めてこの本を読んだのはアメリカで留学中の時でした。何回読んでも楽しい本で、読む度に多くの箇所で笑ってしまいます。

楽しい中にも著者のアメリカ社会、アメリカ人に対する鋭い洞察と分析はとても参考になり、いろいろと深く考えさせられます。社会の本質、人々の行動様式はなかなか変わらないので、著者よりもかなり後にアメリカに着いた私も、様々な指摘にいつも深く同感しながら読んでしまいます。アメリカ社会、アメリカ人の良い面と難しい部分が実に見事に描写されています。

積極的な著者が本業だけにこもることなく、アメリカ滞在中に多様な出来事を体験できたことが、滞在を密度の濃い印象深い日々にしたと言えます。海外留学中、必ず楽しいことと苦しいことがあります。この本を読むと自然に勇気が湧いてきます。

この本を読んだ方の海外留学への関心と希望が高まることを期待しています。

早川 達二（経済学科）



思わせぶりな数字にだまされるな！

『統計の 9 割はウソ』

竹内 薫 著（徳間書店）

TV で発表される官公庁の統計データ、企業広告、ブラック企業経営者の弁明。そのまま出された数字をうのみにせず、一つ一つの見方を説明したやり方が良いです。

この著者も各方面から苦情を受けつつも、あえて、この本を出して、正しい読み方を提示してくれる。その方法に感謝します。

これから大学生活を送る新入生に最初に読んでいただきたい一冊です。

松浦 幸恵（職員）



うるわしきかな、協力!?!

『協力と罰の生物学』

大槻 久 著（岩波書店）

大学の授業でも、グループで、主体的に課題を探し、その課題解決法を考え、解決を試み、さらにその成果を皆の前でプレゼンテーションする、といったアクティブ・ラーニングが、かなり取り入れられるようになりました。単に先生の講義を聴いて知識を身に着けるという受け身の授業ではなかなか身につかない、コミュニケーション力やプレゼンテーション力といった汎用力や、さらに協調性、積極性といった好ましい態度も身につくことが期待できるからです。グループで作業を行うと、1人で行うよりも様々なアイデアが出てきやすいですし、仲間と一緒に何かを成し遂げた時の達成感は、また格別です。でも、ときどきいますねー、面倒な作業は人にさせて、要領よく成果はちゃっかり共有する人。こういう人が目に余るようになるると罰則とか考えないといけなくなり…人だけでなく、動物も、昆虫も、魚も、植物も、細菌も…苦労しています。

松田 文子（学長）



生き物を飼うことの面白さ

『生き物を飼うということ』

木村義志 著（ちくま文庫）

生き物を飼うことに熱中した経験はありますか？本書では「生き物を飼うこと」の魅力、そして「飼うことが好きな人」の性（さが）が何とも小気味よく語られています。筆者は言います、「実際に生き物を飼うとなると、汚い、臭い、死ぬ、手間がかかる、家族に嫌がられる…それでも『生き物を飼うことが好きな人』というのは、生き物をただ眺めているだけではとうてい満足できない。飼育にともなう手間や憂鬱など、どこ吹く風、生き物との暮らしにどっぷり浸かり、気がつけば家の中は生き物だらけになっている。」そう、子供の頃の私も（筆者の足元にも及びませんが）まさにそんな一人でした。面白そうなものがいたらとにかく飼いまくっていたという筆者のエピソードから、豊富な経験からの実践的な飼育法の解説まであり、飼うことが好きな人もそうでない人も、驚きと発見に満ちた飼うことの世界を存分に堪能できる、そんな一冊です。

山岸 幸正（海洋生物科学科）



生物の大先輩、昆虫!

嫌おうが、好もうが、無視しようが、そこにいます。

『昆虫はすごい』

丸山宗利 著（光文社新書）

僕たちが住んでいる地球は、生物多様性が存在していますね。既知の生物の約半数以上を占めるのが昆虫だといわれています。

さてさて、昆虫を見たら、明らかに嫌そうな顔をする人もいれば、目を輝かす人もいます。無視する人もいるでしょう。僕は少なくとも、昆虫について聞いたり観察したりするのは好きです。驚きと感動が豊富にありますもの。

といっても、危険な昆虫はいろいろいますね。日本ではスズメバチが一番危険な動物とありました(P216、2～4行目)。他にも蚊やダニなど、昆虫を介した感染症はたくさんあるそうです。

上に挙げたのは危険な昆虫のほんの一例です。昆虫について研究するとなると、やはり危険が付きまといます。それなのに、何でそんなものをいちいち研究したりするんだ。面白いんでしょうね。

丸山氏によると、とにかく昆虫はすごい、とのこと。いくつかの話にまとめられている昆虫ワールド、とても面白いです。

荒井 賢（人間文化学科1年）



人と犬との出会い

『犬のココロをよむ —伴侶動物学からわかること—』

菊水健史，永澤美保 著（岩波書店）

犬を飼っている方は多いと思います。

しつけなど、がんばっている方もいると思います。この本は、犬のルーツや、犬がどれくらいの事ができて、コミュニケーション能力がどれくらいあるのかの研究データと併せて、分かりやすく教えてくれます。

身近にいる犬との接し方や、犬のしぐさに何を思っているのかを考えさせられ、一緒に過ごせる事の喜びや楽しさを改めて教えてもらえた一冊です。

犬を飼っている人、飼いたいと思っている方はぜひ読んでみてください。

池田 英代（職員）



そこにあるそれぞれの正義に従って

『もしも遠隔操作で家族が犯罪者に仕立てられたら
～ネットが生み出すあたらしい冤罪の物語』
一田和樹 著（技術評論社）

「ゲームオーバー」と「この本のタイトル」から皆さんは、何を想像するだろうか。少し前に PC の遠隔操作事件で誤認逮捕された事件があったことを覚えている人もいるだろう。

インターネットの普及によって、「情報収集」「ソーシャルネットワークサービス（SNS）」「買い物」「ネットバンキング」などの際、個人情報を得たり、入力したりを日々繰り返している人にこそ読んでもらいたい。

普段、なにげなく行っていることがどんなに危険であり、被害者、加害者は紙一重であることを。そして、誰の「正義」が正しいのかを考えてもらいたい。物語の前半は、世の中の矛盾からの絶望感を、後半は、ネットの世界のすごさ、恐ろしさを体験することになる。ネットに依存している時代だからこそ「ゲームオーバー」になる前に読んでおきたい一冊である。

片桐 重和（情報工学科）



生物には全く興味のない人でも、
面白おかしく読み切れる一冊です。

『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます!』

小林朋道 著（築地書館）

田舎にある大学でしか体験できないような事件を、動物好きの学生と一緒にあって、解決していく。その捜索活動の一部始終を著者の体験談を元に面白おかしく取りまとめた本です。

著者が在籍する学校は本学と同じように、爬虫類、動物が生息しているような緑豊かな土地の中にあります。そこに生活している動物を発端にして、珍事件が起こります。内容の一部を紹介すると、コウモリが廊下を飛んでいたら、その住処を調べたり、ヘビやハムスターが研究室から逃げ出した時は、隠れ場所を考えたり、死んだヘビがいたら死因の究明をしたりと、動物の生態系を基に、人間とのかかわりを面白おかしく説いた本に仕上がっています。

本学でも、マウスや、テンを育てている研究者がいます。飼育している動物から、動物の生態系を学ばせてもらってはいかがでしょうか。

この本の続編が沢山出ています。面白い!と感じたら購入希望を出してください。

桑田 成年（職員）



本物のサイエンス・フィクション！
論理的な思考の大切さを教えてくれる
理系学生の必読書がこれだ！

『星を継ぐもの』

ジェイムズ・P. ホーガン 著，池央耿 訳著（創元 SF 文庫）

ランキングに必ず登場する第一級の SF で、アニメの「映画版 Z ガンダム」や「不思議の海ナディア」などではタイトルがオマージュされ、センス・オブ・ワンダーに満ちた内容で数多くの SF 系クリエイターに影響を与えている作品です（気になる人は調べてね）。

ストーリーは、月面上で見つかった宇宙服を着た遺体の死亡時期が 5 万年前だったことから始まります。この謎の解明に、物理学、生物学、言語学などの多分野の学者が集まり、地球から月、木星の衛星ガニメデに舞台を移しながら断片的事実を積み重ねて、最後に人類誕生に関わる結論を導き出すという話です。

私が「理系学生の必読書」と言う理由は、論理的な思考と実証の積み重ねによって仮説を立証していく主人公たちの姿勢に、「研究や勉強するということはこういうことが大切なのだ」と共感するからなのです。読んでもらえれば、「なるほど…この感覚ね」ってわかってもらえると思いますよ。

追伸：この本は 3 部作の最初で、「星を継ぐもの」の真の意味は、続編を読んで初めて納得…なんですけどね。

酒井 要（建築学科）



何年も前に書かれているのにかかわらず、
現在の社会問題を的確に捉えている不思議な本

『アミ小さな宇宙人』
エンリケ・バリ奥斯 著（徳間文庫）

この本は一見子ども向けに書かれています
が、是非とも大人達を読むべき本です。

内容はペドゥリートという少年とアミ（ア
ミーゴ：友達の頭文字）という宇宙人の話です
が、科学技術の問題、真理、哲学といったとて
も内容の濃い話になっています。また、この本
は世界 11 カ国語に翻訳されたベストセラーと
なっており、世界でも注目されています。

中でも非常に興味深いのは、何年も前に書
かれているにもかかわらず、現在 2010 年代の
社会問題を的確に捉えている点です。フィクシ
ョンのようで内容は現在とぴったり。実話なの
では？という声も読者がよく投稿しています。

これからの社会の未来を築き上げる新入生
のみならず、幅広い皆さんに是非ふれて欲しい
一冊です。

杉原 千紗（生物工学科）



ロボットの心 人間の心

『ロボットとは何か 一人の心を映す鏡—』 石黒 浩 著（講談社現代新書）

2014 年秋、石黒浩氏の講演を聴く機会があり、ロボットの話だけではなくて、人間についてずいぶん多くのことを考えさせられた。

石黒氏自身をモデルとしたアンドロイド「ジェミノイド HI-1」は、石黒氏に代わって講演もするのだという。石黒氏は、人間酷似のロボット研究の第一人者であり、世界中から注目を集めている。

講演は、すべてが刺激的であった。ロボットを通して人間を知りたいという根源的な熱意を基底に据えながら、ロボットと人間の未来についての創造的な話が繰り広げられた。

人間への様々な思いを膨らませることができた。講演を通しての石黒氏とのこの出会いが、ロボット研究者でもない私が、石黒氏のこの本を紹介する所以なのである。

副題に、ロボットは「人の心を映す鏡」であると言う。帯には「知的興奮で三日三晩眠れなくなることに必至である」とある。

竹盛 浩二（大学教育センター）



ブドウ栽培からワイン醸造までをシステム化して 地域を再生するモデルを築く！

『千曲川ワインバレー 新しい農業への視点』

玉村豊男 著（集英社新書）

この本は、日本全国の地方が今直面している人口減少や文化的経済的衰退に対して、どのような復活のモデルがあるかということを提示してくれます。1次産業である農業を含めた地方の疲弊がさげばれて久しくなります。経済や文化が中央に一極集中する問題の解決策として、里山の再生が提唱されるようになりました。

著者の玉村豊男氏はフランス文化などのエッセイを得意としていましたが、あるとき一念発起して、長野県の東御市にブドウ栽培からワイン醸造までを一貫して行う独自のワイナリーを創設しました。この近辺はワイン特区に認定され、玉村氏の発案で千曲川ワインバレープロジェクトを立ち上げました。玉村氏らはワイン醸造を志す若者を支援して、ワインを主軸とした近縁の産業を切り開くことを始めました。いわゆる地域の再生モデルです。この本の中には、どのようにしたら地域の活性化を促すことができるかというヒントがたくさん含まれています。

久富 泰資（生物工学科）



読めば分かる、読まねば分からぬ、何事も・・・

『小惑星探査機はやぶさ物語』
的川泰宣 著（生活人新書（NHK 出版））

私が紹介しますは、的川泰宣の『小惑星探査機はやぶさ物語』この本はそのタイトル通りに 2003 年に打ち上げられ 2010 年に帰還した、かの有名な小惑星探査機はやぶさの軌跡と奇跡を描いた本です。この本は 7 章によって構成されており、まず第 1 章ははやぶさが地球に帰還した時の状況の概略とそもそもはやぶさが生まれた理由を紹介しています。第 2 章でははやぶさの目的と、その機体に盛り込まれた様々な新技術や、原理の仕組が描かれています。そして第 3 章では、ロケットの打ち上げのための下準備から始まりはやぶさの最終チェックと命名の由来が示されています。第 4 章ではいよいよ小惑星イトカワへの着陸が描かれ、第 5 章では様々のトラブルを乗り越えながらの帰還が紹介されています。第 6 章と第 7 章でははやぶさの功績と評価が示されています。はやぶさ 2 号が完成した今、一読してみてはいかがでしょうか。

丸山 涼火（人間文化学科 1 年）



常識を疑う勇気をもつ

『巨大翼竜は飛べたのか』

佐藤克文 著（平凡社新書）

恐竜が陸上を闊歩した時代、大空は巨大な翼竜が支配していたと誰もがイメージするだろう。現生動物の行動を研究する動物学者である著者は、さまざまな鳥の飛翔能力や体のサイズ、翼の形状を比較して、ある法則を導き出した。それに基づけば、「**翼竜は飛べるはずがなかった**」というのが結論である。

当初、古生物学者や恐竜ファンからは「机上の空論だ!」と批判が殺到したそう。しかし、実際に翼竜が飛ぶ様を見た人はいないのだ。著者の研究は、自ら手で掴んだ動物から得られた野外調査の結果をもとにしている。研究とは、過去の知見から学び、さらに新たな挑戦を経て、誰も知らない新しい事実を発見することである。過去の知見を学ぶことは、学生にとって重要なことだ。しかし、必ずしも過去の知見が正しいとは限らない。研究者（人）として大切なのは、自分で観て感じた事実を信じるべきであると、著者は伝えたいのではないだろうか。

渡辺 伸一（海洋生物科学科）



努力とは何なのだろうか。
夢に向かって頑張る人へ。

『風が強く吹いている』
三浦しをん 著（新潮文庫）

あなたには夢がありますか？この本は夢を追いかけて、努力をするあなたの背中をほんの少しだけ押してくれるような本です。

この物語の主人公は天才ランナー蔵原走。ひょんなことから寛政大学の陸上部にスカウトされ、「箱根駅伝」を目指すことになります。しかし、その陸上部にいたのは駅伝素人の9人でした。走を含めた10人のランナーが起こす奇跡の物語です。この10人で「箱根駅伝」を目指し、努力とは何か、勝利とは何かを問う。

一棟 俊範（人間文化学科1年）



星新一の本を目にすることがあったら、
最初の1話だけでもいいので読んでみてください！

『ボッコちゃん』

星 新一 著（新潮文庫）

私が星新一の作品に初めてふれたのは中学1年生の読書タイムです。本を持ってくるのを忘れた私に友達が貸してくれたことがきっかけでした。たった10分間の読書タイムでしたが、あまりの面白さにのめりこんでしまい、その後の休み時間が終わったことにも気づかず、友達に「次の授業始まるよ」と言われたことを覚えています。

星新一は短編小説の一形式であるショートショートという分野を開拓した人物で、中には1話を数分で読み終えてしまうものもあります。『ボッコちゃん』には一冊に50篇もの話が収録されており、その中の「おーいでてこーい」については、ドラマ化や英語の教科書に載っていたことがあるので知っている人もいるのではないのでしょうか。私は特に「暑さ」と「ゆきとどいた生活」がお気に入りです。短いSF小説の中に表現されているブラックユーモアにあふれた世界を、みなさんもぜひ体験してみませんか。

片山 佳織（薬学部6年）



『指輪物語』の前日譚。

20 世紀最上のファンタジーはここから始まる

『ホビット ゆきてかえりし物語』

J. R. R. トールキン著，山本史郎 訳（原書房）

皆さんは『指輪物語』をご存じでしょうか？
2001 年から 2003 年にかけて、全三部作で映画化された、架空世界“中つ国”を舞台としたファンタジー小説です。本書はその物語の前日譚にあたり、2012 年から昨年 2014 年にかけて映画化され、大きな話題を呼びました。

内容は児童文学よろしく、至って平凡なホビットである主人公ビルボが、魔法使いやドワーフと共に竜に奪われた財宝を取り戻すべく、竜の棲む山を目指す冒険譚です。

映画と共に楽しみたい人には、岩波書店の瀬田貞二氏翻訳版をお勧めしますが、これから大学生として様々なことを学んでゆく皆さんには、是非こちらの山本史郎氏翻訳版を読んで頂きたいと思います。

上・下巻共に、本の 1/3 が本書の、もしくは『指輪物語』への注釈となっています。子供向けの物語と思わずに、注釈と併せて“英文学”として読んでみるのはいかがでしょうか？

喜多村 侑佳（職員）



「この町にはね、奇跡が起きるんだよ。」
潮ノ道—そこは不思議な力と幻想の物語が存在する町—

『扉守～潮ノ道の旅人～』

光原百合 著（文藝春秋）

尾道市出身作家・光原百合氏による尾道をモデルにした町、「潮ノ道」を舞台に繰り広げられる幻想ファンタジー、それが『扉守』です。同じ町の中で紡がれるどこか懐かしく不思議な世界観で構成されたこの短編集は、きっと読者の心に暖かいものを残してくれるはずです。

表題となっている『扉守』ではとある事情より潮ノ道で「扉守」をつとめている少し無気力だけれど心優しい青年と、異界から訪れた「よそもの」に取り憑かれてしまった少女の物語が展開します。方言交じりの言葉や懐古の情を誘う町並みの描写、そして高校生の女の子の抱える「自分の弱さ」を幻想と青年との心の交流を持って描ききっている本編はきっと皆さんの心を打つ筈です。この『扉守』の他『桜絵師』などを含めた切なく優しい物語が7編収録されており、それぞれに違った感動を覚えることでしょう。

広島本屋大賞を受賞した本作。ぜひ手にとって幻想の世界へ迷い込んでみませんか？

吉川 万葉（人間文化学科1年）



少女は恋をした、美しいあの方に

『朝雲』

川端康成 著（新潮社）

私が紹介する本は川端康成の『朝雲』だ。これは、富士の裾野にある女学校に通う主人公・宮子が3年次に新しい国語教師として着任した菊井先生に淡い恋心を抱く物語である。女学生の純粋な想いが、川端ならではのタッチで描かれている作品だ。

この物語で印象深かったのは、父兄会で発表する踊りの出演者決めの場面だ。この場面で菊井先生は「選ばれるのはしかたがないわ。人間ですもの。私達は、選ばれて、選ばれて、生きてゆくのだわ。」と言っている。なぜこの場面が印象深いかというと、この台詞が、見事に人間の生き方を言い当てていると感じたからである。人間は選ばれることによって現状を変化させるのでは、と思わされた一文だった。

この作品の宮子と同様私自身もある人に強い憧れを抱いているが、以前はそれを恥ずべき事と感じていた。しかし、この作品のおかげでそうではない、と気づくことができた。

木村 美紗希（人間文化学科1年）



この一冊を読むと毎日を大切に生きようと思います

『永遠の 0』

百田尚樹 著（講談社文庫）

私は『永遠の 0』という本を、高校の日本史の先生から紹介されて読みました。最初は本の分厚さに圧倒されましたが、読み進めていくうちにどんどん続きが気になり、本の世界に引きずり込まれました。

主人公の健太郎の祖父は「絶対生きて帰る」と言っていました。だが、特攻隊で命を落としました。それは何故か。健太郎が真実を追い求める話です。この作品を読んでみて「いま当たり前前のことは実は当たり前前のことではない」ということに気付かされました。「簡単に死にたい」という人がいますがそれが許せなくなりました。生きるということがどんなに大切に貴重なことか考えさせられます。特に元特攻要員が語るシーンで「愛する人に会えないし、やりたかったことはもう二度と出来ない」と言います。どれも現代ではいとも簡単にやれることです。会いたい人に会えること、やりたいことがやれる機会がたくさんあるこの現状に感謝しつつ一日一日を大切に生きていこうと思いました。

金藤 寿希亜（人間文化学科 1 年）



大学時代を自分のものにするために

『青が散る』

宮本 輝 著（文春文庫）

とある関西地方の新設私立大学のテニス部を舞台とした青春小説です。不本意な大学入学をしてしまった主人公が、テニスサークルや周囲の人々との出会いと別れを通して成長していく物語です。主人公をはじめとした登場人物の人生は決して楽々とは進んでいきません。しかし、それこそが二十歳そこそこの若者が体験する世の中のほんとうの姿ではないかと思えます。勉学はそこそこに、テニスに打ち込む主人公たちですが、勝利することがいかに難しいことであり敗れることがいかにつらく苦しいことであるかを実感して人間の内面の重要な部分を作りあげていく様子が伝わってきます。そして、大学生らしく単位の取得にも苦しめられます。研究室から彼らを見つめる老教授の辰巳先生曰く、「若者は自由でなくてはいけないが、もうひとつ、潔癖でなくてはいけない。自由と潔癖こそ、青春の特権ではないか」。昭和50年代に出版された小説ですが、古臭さを感じさせないので一読の価値があります。

伍賀 正典（スマートシステム学科）



アメリカ南部の世界を独特な手法で描いた フォークナーの世界

『フォークナー短編集』

ウィリアム・フォークナー 著，龍口直太郎 訳（新潮文庫）

私が薦めたい本は、『フォークナー短編集』です。この本は、アメリカの作家で 1950 年にノーベル文学賞を受賞した、ウィリアム・フォークナーの作品集です。フォークナーはアメリカ南部のミシシッピ州、オクスフォードで長年過ごしており、同地をモデルにした架空の土地「ヨクナパト-ファ郡ジェファソン」を舞台に数多くの作品を書いており、この短編の中の作品にもこの町の中の出来事が書かれているものがあります。フォークナーの作品はアメリカ南部の退廃的な生活や、暴力的な犯罪の現実を独特な手法で描いており、この本は彼の作品をまったく知らないという方でも、作品の雰囲気や、彼がどのような作品を書いているのかといったことを知るには普通の文庫本サイズなので、読みやすいと思います。フォークナーの作品を読んで見たいという方や興味がある方、19 世紀のアメリカ南部の雰囲気を感じてみたい方々はぜひ読んでみてください。

佐々木 光行（人間文化学科 3 年）



「獣」との出会いが、少女の運命を変える

『獣の奏者』

上橋菜穂子 著（講談社）

この本の世界ではまず鬨蛇、王獣と呼ばれる二つの生き物がいる。そしてその鬨蛇を育成する村で母と暮らす少女、エリンが主人公だ。エリンの母は獣ノ医術師であり、鬨蛇の中でも特に強いものの世話を任せられていた。しかしある日、その鬨蛇たち全てが突然死んでしまい、母はその責任として処刑を受ける。エリンは母を助けようと処刑場まで追うものの、結果的に母という唯一の存在を失ってしまう。その後、エリンは蜂飼いのジョウンに助け出され、彼と暮らしつつ生き物についての知識を深めていく。その時に、山奥で野生の王獣を目にし、その姿に魅了されたエリンは母と同じ獣ノ医術師になることを決意する。ジョウンも応援してくれたが、そのジョウンも病気で急死する。母やジョウン、大切な人たちを失いながらも、エリンはその悲しみを乗り越え、王獣保護場へと入舎する。そこでの王獣の子ども、リランとの出会いがエリンの運命をさらに大きく変えていく。

佐藤 未佳子（人間文化学科 1 年）



煌めく光源氏の世界へようこそ

『あさきゆめみし』

大和和紀 著（講談社）

私が皆さんに紹介したい本は、大和和紀さんが描いた『あさきゆめみし』です。この本は『源氏物語』を漫画にして著したものです。

この物語は、天皇の第二皇子として生まれた、光り輝くように美しい「光源氏」の恋愛模様が主に描かれ、後半部分の宇治十帖編では光源氏の子や孫たちの話が描かれています。幼い頃に母を亡くした光源氏は、母の生き写しと言われる継母の妃を慕い、恋心を抱きます。しかし、その恋は叶うはずもなく、実らぬ恋心を埋めるように、光源氏は多くの女性と恋愛を重ねていきます。光源氏は何を求め生きたのでしょうか。一夫多妻の世界で女性たちは、何を思い、どのように生きたのでしょうか。私は、『あさきゆめみし』には、深い人間ドラマが描かれていると思います。

この本は漫画なので読み易く、平安貴族の暮らしぶりが煌びやかに描かれています。皆さんも、是非、この本を手にとって、『源氏物語』の世界に触れてみてください。

高橋 幸子（人間文化学科 1 年）



福山市松永が舞台です

『ハブテトル ハブテトラ』

中島京子 著（ポプラ社）

“ハブテトル”は備後弁で「すねている、むくれている」という意味です。“ハブテトラ”は、その否定形。

東京の小学校で不登校になった少年が、母の故郷である広島県福山市松永で二学期だけ両親と離れて祖父母の家で暮らし地元の学校へ転校してきます。ちょっと癖のある近所のおじさん、同級生の友だち、お母さんの同級生の担任の先生、出逢った人々との関わりやしみなみ街道での冒険旅行の中で自信を付け、たくましく成長し自分で考え東京の小学校へ帰っていきます。

備後弁がポンポン飛び交うテンポの良い話で、松永・尾道の公園の名前や食べ物・お祭りなどが実名で出てきます。

松永の事を知っている人にも、知らない人にも備後地方のことがあれこれ出てきますので楽しく読んでいただけたらと思います。

高橋 佳美（職員）



ディズニー史上最高の
ファンタジー・ラブストーリー
あなたも魔法にかけられてみませんか？

『魔法にかけられて』

ビル・ケリー 脚本，佐野 晶 ノヴェライズ（竹書房文庫）

私が紹介する本は『魔法にかけられて』です。おとぎ話の世界アンダレーシアで動物たちと暮らす主人公のジゼルは、ある日エドワード王子と出会い、婚約をする。しかし、エドワードの継母ナリッサ（意地悪な魔女）がジセルに王女の座を奪われる危険を感じ、ジセルを騙して魔法をかけ、現実世界のニューヨークへと追放してしまう。大都会ニューヨークで路頭に迷い、途方に暮れていたジセルは夢や魔法を信じていない弁護士のリバートとその娘のモーガンと出会う。やがてジセルを追って王子や、ナリッサ、ドラゴンも現れてニューヨークは大パニックになる。

姫がドラゴンと戦うなど様々な物語の展開が楽しく、この世界に入り込んだような気持ちで読めると思います。最終的にジセルの魔法は解けるのか、話の結末はどうか気になる一冊です。是非、読んでほしいです。

橋本 菜生（人間文化学科 1 年）



複雑で狡猾で、図太い
それが人間なのかもしれません

『人間失格』

太宰 治 著（新潮文庫）

人間失格。不思議なタイトルです。長年気には止めていたものの、読む機会を得なかったこの本に手を伸ばしたのは、大学生の今でなら、この本の内容が理解できるのではないかと考えたからです。「欺きあっているながら、清く明るく朗らかに生きている、或いは生き得る自信を持っているような人間が難解なのです。」あなたはこの思いに共感するのでしょうか？この本の主人公は手記にそう綴っています。このような思考をする主人公は、本当に純粋な心を持っているのではないのでしょうか。しかし、あまりにも純粋であるために、周りに酷く流され、曰く「恥の多い生涯」を送ることになります。流される方が失格なのか、流す方が失格なのか。人間の生き方を考えたいくなるような一冊です。最後に名言とも言える一文を、「世間というものは、個人ではなかろうか」。気になった方は是非読んで、考えてみてください。

原田 卓也（心理学科 4 年）



あなたには最愛の人がいますか？

別れ、悲しみ、困難、共に乗り越えることができますか？

『100 回泣くこと』

中村 航 著（小学館文庫）

『100 回泣くこと』というタイトルからも想像できるように泣ける話になっています。

主人公が飼っている犬が死にそう、と実家から一報が入るところから物語は始まります。最初のうちは、「死」ということを軽視しているような内容に思えますが、話を進めていくうちに、「死」について深く考えさせられる内容となっています。結婚を前提として付き合う若い二人の恋愛小説ですが、2 人の間には、彼がバイク事故によって記憶を失う、彼女は余命宣告を受ける・・・といったような様々な壁があります。

「ルナレインボーを一緒に見に行こう・・・」この 2 人の約束は果たして果たされるのでしょうか。当たり前のようにあるものは、そこにあるだけで“奇跡”だということを、この小説によって少なからず気付かされるはずでしょう。相手を思いやる気持ちを決して忘れてはいけないということがとても強く感じられるお話です。

藤井 真実（心理学科 3 年）



宮沢賢治の創りだす幻想的な世界、
皆さんもぜひ感じてみてください。

『銀河鉄道の夜』
宮沢賢治 著（新潮文庫）

宮沢賢治といえば誰もが知る作家です。そして、この『銀河鉄道の夜』は彼の代表作ともいえる童話です。主人公ジョバンニが、親友カムパネルラとともに銀河鉄道に乗り夜空を旅するというとても幻想的な物語ですが、この作品は人の「死」や「幸せ」というものが物語にとっても深く関わっており、それが作品全体に重み、深みを与えているように感じました。

この作品は、宮沢賢治の手によって10年近くもの間、何度も推敲を重ねられ、遂には発表されないまま宮沢賢治は亡くなりました。彼の死後、草稿の形で遺されたため様々な解釈が行われ、その度、物語に変更が加えられていましたが、現在の形が最終形であるとされています。

近年でも様々な人達がこの作品から影響をうけ、そこから作品を生み出すなど、その影響力の強さがわかります。ジョバンニとカムパネルラは銀河鉄道に乗りどこへ向かうのか、ぜひ皆さんの目で確かめてください。

松山 裕矢（心理学科3年）



かつて味わったことのない奇妙さと
それを覆す爽快感が一度に味わえる作品

『江戸川乱歩傑作選』
江戸川乱歩 著（新潮文庫）

『江戸川乱歩傑作選』では、9編の話が入っているのですがその中でも特に興味をそそられたのが「人間椅子」という話です。この話はある婦人作家の元に届いた奇妙なファンレターから物語は進んでいきます。そのファンレターには、送り主である椅子職人の「私」が自分の作った椅子の中に人の入れるスペースを作り、その椅子の中に入って過ごしたという悪夢のような数ヶ月について書かれていました。そして最後には、いかにも婦人作家が今使っている椅子に自分が入っているかのような文章と婦人作家への告白が書かれており……。

この作品を読み終えた時、おそらく多くの人が作者に対して、「やられた!」と思うことでしょう。そして、物語の途中で感じた奇妙さや疑問は最後のどんでん返しで爽快感に覆されることでしょう。「人間椅子」は読み手の心理状態をうまく利用しており、新たな世界観を与えてくれるだけでなく、短編ということでも読みやすい作品です。

宮地 菜緒（人間文化学科1年）



彼らが犯した過去の罪を
アメリカ先住民の童謡で贖罪します

『そして誰もいなくなった』
アガサ・クリスティー 著、清水俊二 訳（ハヤカワ文庫）

様々な職業・年齢の 11 人の人達が一つの島に呼ばれた。しかし、招待主の姿はなく 11 体のインディアン人形と謎の声が招待客の過去の咎められなかった殺人を告白していく。そして無意味な童謡による殺人が始まっていく。そして人形も 1 体ずつ消えていく。果たして、誰が何の為に。疑心暗鬼に包まれる彼らの心情と、完全な殺人。そしてまさかの真実。

100 作以上の作品を遺したアガサ・クリスティーの絶頂期に書いたこの作品。私は別の文豪漫画を読み、どんな作品なのか借りました。読み始めて手が止まらず、1 日で読んでしまいました。「まさか、この人が」と最後の 5 ページでの結末につばを呑みました。

『インシテミル』という作品に影響を与えた本格ミステリー小説。招待客 11 人は密室となった孤島から脱出できるのか。

結末は、あなたの眼でお確かめください。

保田 洸紀（海洋生物科学科 1 年）



アキレスと亀のパラドックスって、聞いたことあります？

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

村上春樹 著（新潮文庫）

作家になる前はジャズ喫茶を経営していただけあって、村上春樹さんの小説にはいろんな音楽が流れています。知らない唄の一節や歌手の名前が書かれてあるのを見ては、つい気になって YouTube で検索し……こんな楽しみ方ができるのも、30 年前に書かれたこの小説をいま読む私たちの特権かもしれません。

音楽には物語の要所要所で存在感があります。たとえば最初から何度か出てくるアイルランド民謡の「ダニー・ボーイ」は、私も好きな曲（木住野佳子さんのバージョンが気に入って、彼女のピアノの楽譜まで手に入れて練習してるのはここだけの話）。唄というものを誰も知らない「世界の終り」にいる「僕」が譲り受けるのは、手風琴という楽器。メロディを探し求めて彼の奏でる和音の響きが、読者の耳にも届いてきます。

時間の流れを生きる私たちにとって、音楽はそこにあるもの。そうそう、時間の流れと言え、この小説を読んでいて思い出したこと。見出しに挙げた逆説の話、知ってます？

山崎 理央（心理学科）



サラッと読めて和菓子が食べたくなる一冊

『和菓子のアン』

坂木 司 著（光文社文庫）

デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働くことになったアンは、「みつ屋」に来る謎めいたお客さんたちの言動や行動に秘められた意外な真相を解いていく。

この小説はジャンルがミステリーとなっていますが、人が殺されたりするようなミステリーではなく、日常に隠されているちょっとした謎を解いていく「日常の謎」ミステリーで、気軽に読むことができます。

そして、この小説の魅力はなんと言っても読むと『和菓子』の知識が増えること。和菓子ひとつひとつに深い意味や特徴、歴史があり、それらをうまく使って、和菓子自身が物語と大きく関わって話の真相につながっていくお話となっています。

サクッと読めて、和菓子の魅力を上手に伝えているこの本を読めば、あなたはきっと和菓子を食べたくなるでしょう。

吉津 悠子（職員）

推薦図書リスト

『青が散る 上, 下 新装版』 宮本輝(文藝春秋, 2007 年)

『あさきゆめみし:源氏物語 全 7 冊』 大和和紀(講談社, 2001 年)

『朝雲』 川端康成(新潮社, 1941 年)

『ミ小さな宇宙人』 エリカ・バリス ; 石原彰二訳 ; さくらももこ絵(徳間書店, 2005 年)

『生き物を飼うということ:クワガタムシからニシキヘビまで』 木村義志(筑摩書房, 2005 年)

『池上彰のやさしい教養講座』 池上彰 ; 日本経済新聞社編(日本経済新聞出版社, 2014 年)

『イザベラ・バートの旅:『日本奥地紀行』を読む』 宮本常一(講談社, 2014 年)

『犬のココロをよむ:伴侶動物学からわかること』 菊水健史, 永澤美保(岩波書店, 2012 年)

『永遠の 0』 百田尚樹(講談社, 2009 年)

『江戸川乱歩傑作選 改版』 江戸川乱歩(新潮社, 2009 年)

『欧米人が沈黙するとき:異文化間のコミュニケーション』 直塚玲子(大修館書店, 1980 年)

『風が強く吹いている』 三浦しをん(新潮社, 2009 年)

『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎(岩波書店, 1982 年)

『99 のなみだ:涙がこころを癒す短篇小説集』 リンダ・ブックス編集部編著(泰文堂, 2008 年)

『協力と罰の生物学』 大槻久(岩波書店, 2014 年)

『巨大翼竜は飛べたのか:スケールと行動の動物学』 佐藤克文(平凡社, 2011 年)

『新編銀河鉄道の夜 改版』 宮沢賢治(新潮社, 2012 年)

『羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 : 外十八篇』 芥川龍之介(文芸春秋, 1997 年)

『獣の奏者 1-4, 外伝』 上橋菜穂子(講談社, 2009-2013 年)

『この野菜にこの料理:大好きな素材を 3 倍おいしく』 有元葉子(筑摩書房, 2014 年)

『昆虫はすごい』 丸山宗利(光文社, 2014 年)

『嗜好品文化を学ぶ人のために』 高田公理, 嗜好品文化研究会編(世界思想社, 2008 年)

『自分を動かす言葉』 中澤佑二(ベストセラーズ, 2013 年)

『小惑星探査機はやぶさ物語』 的川泰宣(日本放送出版協会, 2010 年)

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 上, 下巻』 村上春樹(新潮社, 1988 年)

『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます!』 小林朋道(築地書館, 2007 年)

『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティー ; 清水俊二訳(早川書房, 2003 年)

『ガメラ Ⅲ 人間』 鈴井貴之(メディアファクトリー, 2010 年)

『千曲川ワインバレー』 玉村豊男(集英社, 2013 年)

『知的複眼思考法: 誰でも持っている創造力のスイッチ』 荻谷剛彦(講談社, 2002 年)

『統計の9割はウソ: 世界にはびこる「数字トリック」を見破る技術』 竹内薫(徳間書店, 2014 年)

『読書からはじまる』 長田弘(日本放送出版協会, 2001 年)

『扉守: 潮ノ道の旅人』 光原百合(文藝春秋, 2009 年)

『二〇世紀の歴史』 木畑洋一(岩波書店, 2014 年)

『2005 年のロケットボーイズ』 五十嵐貴久(双葉社, 2008 年)

『人間失格 改版』 太宰治(新潮社, 2006 年)

『ハブホテルハブホテル』 中島京子(ポプラ社, 2008 年)

『反社会学講座』 ハーロッド・マツァリーノ(イースト・プレス, 2004 年)

『100 回泣くこと』 中村航(小学館, 2007 年)

『フォークナー短編集 改版』 ウィリアム・フォークナー ; 龍口直太郎訳(新潮社, 2013 年)

『ぼくとビル・ゲイツとマイクロソフト: アイデア・マンの軌跡と夢』 ホール・アレン ; 夏目大訳(講談社, 2013 年)

『星を継ぐもの』 ジェイムズ・P. ホーガン ; 池央耿訳(東京創元社, 1997 年)

『ボッコちゃん 改版』 星新一(新潮社, 2012 年)

『ほとけの救い: 仏教入門』 寺内大吉(一栗社, 2008 年)

『ホット:ゆきてかえりし物語 上,下 新版』J・R・R・トールキン ; タグ・ラス・A・アンダーソン注 ;
山本史郎訳(原書房, 2012 年)

『魔法にかけられて』ビル・ケリー脚本 ; 佐野晶ノヴェライズ(竹書房, 2008 年)

『〇に近い△を生きる』鎌田實(ポプラ社, 2013 年)

『マンガ水木しげるの伝 完全版 上, 中, 下』水木しげる(講談社コミッククリエイト,
2004-2005 年)

『道は開ける 新装版』D・カーネギー ; 香山晶訳(創元社, 1999 年)

『道は開ける:決定版カーネギー:あらゆる悩みから自由になる方法』D・カーネギー ; 東条健
一訳(新潮社, 2014 年)

『道は開ける 新訳』D・カーネギー ; 田内志文訳(KADOKAWA, 2014 年)

『もしも遠隔操作で家族が犯罪者に仕立てられたら:ネットが生み出すあたらしい冤罪
の物語』一田和樹(技術評論社, 2013 年)

『Life:なんでもない日、おめでとう!のごはん。』飯島奈美料理・スタイリング ; 大江弘
之写真(東京糸井重里事務所, 2009 年)

『利他のすすめ』大山泰弘(WAVE 出版, 2011 年)

『ホットとは何か:人の心を映す鏡』石黒浩(講談社, 2009 年)

『若き数学者のアメリカ 改版』藤原正彦(新潮社, 2003 年)

『和菓子のアン』坂木司(光文社, 2012 年)

新入生にすすめる 50 冊の本 2015

2015 年 4 月 1 日発行

編集・発行

福山大学図書館運営委員会図書館企画部会

〒729-0292

広島県福山市東村町字三蔵 985 番地の 1

福山大学附属図書館

印刷 三原プリント株式会社

